

令和3年
新春

第66回特別企画展

子規の写真物語

古き新しき取り出して

令和2年12月19日(土)～令和3年2月1日(月)

休館日：令和2年12月22日、令和3年1月5日・12日・19日・26日(いずれも火曜日)

開館時間：午前9時～午後5時(展示室入場は午後4時30分まで)

会場：松山市立子規記念博物館3階特別展示室

観覧料：個人400円 団体320円 65歳以上200円 小中高校生無料

《記念シンポジウム》

演題：「子規が生きた、近代松山の風景」

パネラー：二神 将氏(にかみまさむね)(松山子規会理事・伊豫史談会監事) 竹田 美喜(当館総館長)

日時：令和3年1月11日(月・祝) 午後2時～3時30分

会場：4階講堂 ※入場無料

《ギャラリートーク》

日時：令和2年12月27日(日)、令和3年1月9日(土)

ともに午前10時30分より50分程度 会場：3階特別展示室

※聴講には特別企画展の観覧券が必要

《学芸員による関連講座》

演題：「子規の写真コレクションの魅力」

日時：令和3年1月31日(日) 午前10時30分～12時

会場：1階視聴覚室 ※入場無料



記念シンポジウム・

ギャラリートーク・関連講座は、
新型コロナウイルス感染症の状況により、
中止もしくは入場制限等の
変更を行う場合があります。

松山市立子規記念博物館

TEL 089-931-5566 ☎ 790-0857 松山市道後公園 1-30 <http://sikihaku.lesp.co.jp/>

子規の写真物語

古き新しき取り出して

子規が生きた明治時代、海外から受容した様々な新しい文物が日本に普及しました。写真もその一つであり、新しいもの好きだった子規は写真を愛好しました。

子規は三十四歳十一月カ月という短い人生だったにもかかわらず、その姿を写した写真は現存するだけでも三十枚を超えています。六歳の時に鬘を結った姿で撮影した写真ははじめ、最晩年に撮影した有名な横顔の写真まで、その一枚一枚の写真には表情豊かな子規の姿が確かに刻まれています。子規の写真は、その足跡を知る上で貴重な資料となるばかりでなく、子規の人間としての魅力とドラマチックな人生を色あせることなく物語るものです。

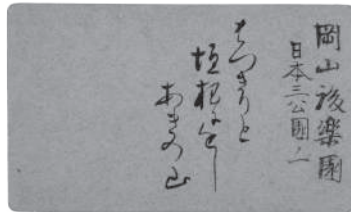
子規は撮影した写真を手元で大切に保管し、折に触れて取り出して眺め、時には文学活動の題材にしました。晩年には、写真をもとに過去の出来事や友人たちとの交流を振り返りつつ、痩せ衰えた自身の病床での姿と対比した俳句や短歌をのこしています。それらの作品は、そう遠くない自身の最期を意識した子規の想いがあるままに詠み込まれており、私たちの胸を打つものです。

また、子規は秋山真之^{あきまこと}や浅井忠^{あさいちゅう}などの友人・知人から贈られた写真や、学生時代に訪れた広島^{ひろし}の厳島や岡山の後楽園^{おらく}などの名所旧跡をはじめ、大久保利通^{おおくほとしみち}や高杉晋作^{たかすぎしんさく}といった有名人、また、女性の髪型など、多種多様な写真をコレクションしていました。これらの子規のコレクションは、晩年に病気のため外出が叶わなかった子規にとって、外の世界とつながる貴重なツールの一つとなり、写真をとおして見る外の世界は病床の子規を癒し、楽しませました。また、写真の裏面には子規が解説文や俳句などを書き入れたものが多く、子規の文学作品としても見る人を惹きつけ、楽しませる、大変ユニークなものです。

今回の特別企画展では、子規記念博物館で所蔵する子規の姿を写した写真や子規の写真コレクションなど約八十枚の写真資料を一堂に展示し、写真が物語る等身大の子規の姿や子規と写真との知られざる関係を紹介いたします。また、あわせて子規が生きた近代・松山の様子を伝える写真資料も紹介いたします。



子規旧蔵「岡山後楽園」写真（表）



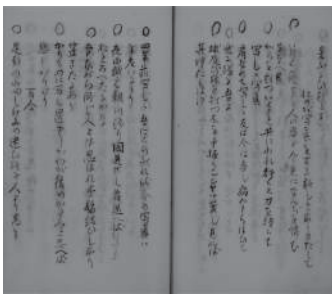
子規旧蔵「岡山後楽園」写真（裏）



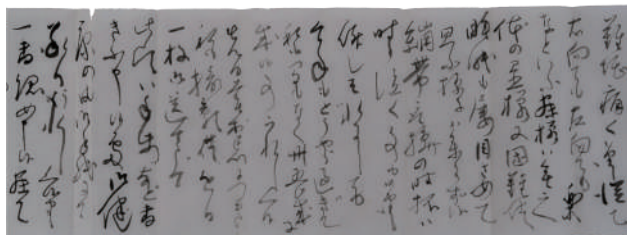
子規写真（明治33年12月24日）



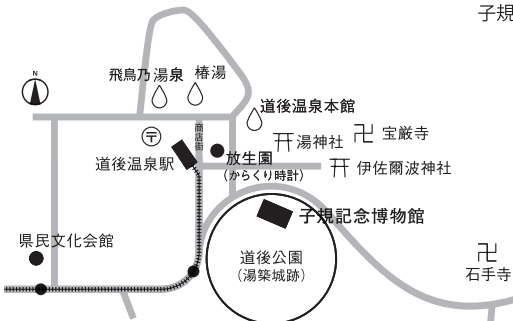
子規と大谷是空写真（明治20年11月12日）



子規歌稿「竹乃里歌」



子規の大原恒徳あて書簡（明治33年12月27日）（個人蔵）



道後温泉駅より徒歩約5分／道後公園駅より徒歩約5分
※公共の交通機関をなるべくご利用ください

